

様式 I

# 「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」 事業実施報告書

【学校名】 京都府立 盲 学校

【全校児童・生徒数】 49 名

【テーマ】 I ㊦ III IV V  
※当てはまるものに○・複数可

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

## 【実践研究タイトル】

視覚障害者スポーツ（フロアバレーボール）を理解し、楽しもう

## 【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

京都市立旭丘中学校生徒会役員 12 名  
本校中学部・高等部普通科球技部部員等 6名

## 【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値 ※当てはまるものに○・複数可	友情（○） 卓越（ ） 尊重（○） 勇気（ ） 決断力（ ） 平等（ ） 鼓舞（ ）
※目的・ねらいを記入してください 参加者が視覚に障害のある生徒と視覚障害者スポーツを通して交流することで、視覚障害について理解を深め、共にスポーツをすることを楽しむ。	

## 【種類】 ※当てはまるものに○・複数可、（ ）には具体名を記入

- ・各教科（ ） ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
- ・部活動（ ） ㊦その他（課外活動）

## 【実践内容等】

（実践内容）

<平成 28 年 11 月 29 日(火)>

京都市立旭丘中学校生徒への視覚障害理解教育とフロアバレーボールのルール理解と実技指導

○視覚障害について

- ・説明(見えない、見えにくいについて)
- ・アイシェード（アイマスク）を付けての体験（転がしたボールを受ける、パスをする）

○フロアバレーボールの実技指導

- ・パス、レシーブ、ルール説明
- ・ゲーム体験（3 チームに分かれて）



<平成 28 年 12 月 13 日(火)>

京都市立旭丘中学校生徒とフロアバレーボールを通して本校生徒との交流

- ・ 合同でパス練習等
- ・ ゲーム（混合チームで対戦、旭丘中学校チームと盲学校チームで対戦）



（実践上の工夫点、留意点等）

- ・ アイシェード（アイマスク）を付けてボールを転がしてパスやレシーブの体験をすることによって、見えない状態の理解を深めやすくした。
- ・ 1回目にフロアボールの基本的な動きやルール、2回目に本校生徒との練習やゲームに取り組み、フロアボールでの交流をしやすいようにした。

（成果）

- ・ 「アイシェード（アイマスク）を付けて見えない状態でボールを受ける時、ボールがどこから来るのかよくわからなくて、ボールを受け止めることがとても難しく大変なことだということがあった」という感想もあり、見えない状態の理解を深めるものになった。
- ・ ゲーム中、前衛ポジションのアイシェードを付けてのプレーで、慣れてくると積極的な動きが出てきて、見えなくても視覚以外の聴覚や触覚等を使っていろいろな動きができることにも気づく様子が見られた。
- ・ 本校生徒の交流は1回だけであったが、フロアバレーボールのゲームを通して「楽しかった」「またしたい」等の声がたくさんあり、視覚障害者スポーツの楽しさや理解につながった。また、盲学校生徒との交流も深められた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

- ・ 今後さらにこのような取り組みを継続させ、視覚障害者の理解やスポーツを通しての共生社会を推し進めていきたい。